
ちこくクエスト

ヒルトウス

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ちこくクエスト

【Nコード】

N9897K

【作者名】

ヒルトウス

【あらすじ】

主人公鷹野鳶介たかのとびすけは学校授業開始の一時間後に起きる。

急いで家を出るのだが、そこに怪物が現れる。

逃げ隠れた鳶介は、視界から消えた怪物を見て、ホッとした。

が、ついに怪物に見つかってしまっ！

全ての始まり（前書き）

作品に気持ちの悪いキャラクターが出て、吐き気などをもよおした場合はすぐ読むのをおやめください。

全ての始まり

朝七時のベルが鳴ってしまった。鷹野鳶介は、布団の首の部分でグいつとつかんで、目覚ましのスイッチをぶちと切った。

鳶介の学校は、午前八時から始まる。そのため、七時一五分に起き、四五分に出る。

だが、スイッチを切ったために、一五分後もベルは鳴らない。

結局起きたのは三〇分。でも鳶介は、ここからさらに寝るのだ！ 熟睡してしまって、起きたのは八時四五分！一時間遅れだ！

「バカ！鳶介！さっさと起きろ！」父親の隼が叫んだ。「一時間遅れだぞ！」

「エッええ！一時間おくれえ！？」鳶介は叫んだ。「何で鳴らないんだ！」

「おまえが電源を切ったんだ！」

「何だつて!？」

鳶介は、すぐ着替えて時間割をあわせた。パンを口に押し込むと、すぐ家を出た。

「やつべえ！」

鳶介は叫んだ。

でも、さえぎられた。何か降ってきた！

信じられないといわないでほしい。なんと頭が一〇本の恐竜がいる！

鳶介は、驚いて物陰に隠れた。

「何だよ、あいつ・・・」

結構逃げ延びたと思った。その怪物はいなくなっている。

そして、後ろを振り向く。

思い込みだ。そう思って首をしめた。

なんとそこには、その怪物が全部歯をむき出していた。

そして近くにいるテンを食べた。

「ひっ」

その言葉のせいだ。

怪物の目が全部、鳶介を見た。

全ての始まり（後書き）

とても書き甲斐のある作品です。

次回、「テンラノンとの戦い」

ご期待ください。

とても短いのは読みやすくするためです。

テンラノンとは？という戦い？

書くのがとても楽しみです。

テンラノンとの戦い（前書き）

前作の続きです。

話はあまり変わりません。

テンラノンとの戦い

その怪物は、鳶介のいた場所を灰にした。

「うわわわ！」

鳶介は叫んだ。

「何なんだよあいつ！」

鳶介は走った。

と、目の前にノートが落ちてきた。

《怪物図鑑》

「なんだ、これ・・・」

鳶介は急いで怪物をひいた。

「あつたぞ！」

そこには、頭十本の恐竜の絵がかいてあった。

「テンラノン・・・槍で一突き？」

槍なんてネエよ！そう叫びたかったが、死ぬ。

ふと、ひらめいた。

彼は傘の先端を道路でこすった。すぐにとがった。

コンパスをそこに内側から刺す。これで槍の完成だ。

「うおおお！俺は学校に行く！」

でも、槍は刺さらない。

案の定、こけた。

焼かれる！そう思ったとき、槍は手から飛び出した。

「えっ！」

どす。

「グアアアアアアアアアアアアアアアア！」

怪物は燃えた。灰がそこに残った。

後で調べたら、首をひとつ切ると十倍生えてくるらしい。

首融合というのがあり、十本全て一本の首になるのだ。

それを斬ると、千本はえる。

次にそれを融合する。そして斬ったら十万本はえる。
ずっと増えつづける。
斬らなくてよかった。
本当にそう思った。
そして歩いていると・・・。
なんと双頭の翼竜がいるじゃないか！
「いつになったら着くんだよ！」

テンラノンとの戦い（後書き）

前作の続き。

テンラノンの正体、わかりました？

まっだまっだ怪物が出ます！

学校にはいつ着くのでしょうか？

今回は「プツインドの復讐」です。

プツインドとは？

いったい何なのだろうか！？

ご期待ください！

あらすじ(前書き)

あらすじです！
次も読んでね！

あらすじ

主人公は、寝坊します。

走る途中、怪物に襲われます！

彼が走っていると、さまざまな怪物が！

彼は自分の正体と、この事件の全貌を知り、いつ学校に着くんでしょうか！？

今までの登場人物、怪物

鷹野鳶介・・・主人公

テンラノン・・・頭が十本の怪物

プツインド・・・???????

鷹野鷲夫・・・父親。重要人物?????

目覚し時計・・・とりあえず人物。この後何らかの形で重要キ
ヤラに！

怪物図鑑

テンラノン・・・頭が十本。斬れば斬るほど首が生える、ヒュ

ドラのような怪物。

プツインド・・・頭が二つの翼竜。鳶介はこれも切り抜けられ
るのか！？

To Be Continued

ued...

あらすじ(後書き)

T O B e c o n t i n u e d

次回はプツインドの復讐!!

プッシュインドの復讐（前書き）

前回の続きでございます。

どうぞよろしくお願いいたします。

プツインドの復讐

鳶介はテンラノンを倒したが、目の前にいる怪物を見て、死にそうになってしまった。

なんとそこには、双頭の翼竜がいる！

さっきテンラノンのページは、「古代種」に分類されていた。もしかすると、これもだろろうか。

そして、隠れている物陰で索引をひいた。

やはり、あった。

「プツインド……？」

プツインドは、特になにも能力は無いらしいが、かまれると死ぬという。

でも槍は、テンラノンの時、爆発して消えた。

どうしよう……。

鳶介はカバンを探った。

あいにく、使えそうなものは無い。

「ヒッ」

またこの声か！？

あーもうどーしよー！

じろりとプツインドがこちらを見た。

「ひーっ！」

おーまいがー！

「どうしようー！」

『よくもテンラノンを！』

「しゃべった！」

To Be Continued

プツインドの復讐（後書き）

つぎはプツインド・ギャラクシーです。

Thank you!

プッシュ・ド・ギャラクシー（前書き）

ついに学校にいける（かもしれない）！

プツインド・ギャラクシー

鳶介はプツインドから遠ざかろうと、じりじりと後ずさりした。

「何なんだよ……」

プツインドは、飛ぶスピードが速い！

「どうすりゃいい！」

《心臓を一突きにすると死ぬ》

「よし」

いちかばちか、やるしかない。

「ツオルリヤアアア！」

鳶介は、武器も無いのに突進し、体当たりした。

すると、驚いたことに、爆死した！

「ええつえええ！」

すると超新星のようにブラックホールが出た！

「うっわわわっわわああっあ！」

鳶介は、吸い込まれてしまった！

プッシュインド・ギャラクシー（後書き）

今回は、いつにも増して短いです。

お楽しみいただければ幸いです。

面白くないという感想もいつてほしいので、お願いいたします。

訂正（前書き）

訂正。

訂正

お父さんの名前は、隼で、鷲夫はおじさんです。あらすじには父親と書いてありましたが、まちがいです。隼は、鷲介のお父さんで、いつもしかります。

鷲夫は、旅して世界中のものをプレゼントしてくれる、やさしいおじさんで、たまにお土産に武器に使えるものがある、助けてくれるおじさん。

まっだまっだ続きますし、まだまだ登場人物はいるので、楽しんでください。

データベースを書くことと思っています。どうぞよろしくおねがいします。

鷲介はいまブラックホールにいます。

この先どうしようかとまよっています。よろしくお願いします。

訂正（後書き）

次もどうぞ。まだサブタイトルは決まってません。

最終回（前書き）

最終回です。別のものを書きますので、し愛読ありがとうございます
した（まあよんでないとおもいますが）

最終回

鳶介はぼろぼろになり、学校の時計を見つけた。

「そっぴやちゃん和学校に通ってんのになんでこんなに時間が？」
でも校門にせんせいがたっている。

「おはようございます！ 授業は始まってないんですか？」

「始まらんよ。私がオマエを食うまでな！」

「おおおおっつっつっつ」

その先生は、下半身がわにみたいだった！

「たすけてええええええ！」

「待てえい！」

そこには驚夫が。

「ペンでも食らえ！」

「ぐわわわわわ！」

その先生は、消えた。

「行けよ」

鳶介は、晴れ晴れしい顔で、ゆっくりと校門を抜け、下駄箱を抜けた。その後、先生にこっぴどくしかられたが、理由は話さなかった。モンスターがいなくても、遅刻は遅刻。

「なんで連絡もしないんだ！」

「わすれてました」

でも、理由は話さない。そう。これは父親と鳶介との秘密です。

T H E
E N D

最終回（後書き）

いかがでしたか。今までありがとうございました！次は、ギリシャ神話をベースにしたものがたりを書きます。本当にありがとうございました！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9897k/>

ちこくクエスト

2010年10月10日17時13分発行